



(本社)



(東広島工場)



トーヨーエイトック株式会社

<https://www.toyo-at.co.jp>

〈本社〉	〒734-8501 広島市南区宇品東5丁目3番38号	TEL.(082)252-5212	FAX.(082)252-5288
〔営業窓口〕	工作機械	TEL.(082)252-5230	FAX.(082)505-1163
	自動車部品	TEL.(082)252-5207	FAX.(082)252-5288
	表面処理	TEL.(082)252-5216	FAX.(082)505-1733

〈工作機械〉

東日本営業所 〒101-0031 東京都千代田区東神田2丁目6番2号
TEL.(03)5687-0231 FAX.(03)5821-8006

中部日本営業所 〒480-0304 愛知県春日井市神屋町字引沢41番地1
TEL.(0568)88-5313 FAX.(0568)88-5328

西日本営業所 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目16番3号
TEL.(06)6337-6222 FAX.(06)6368-1824

〈自動車部品〉

東広島工場 〒739-2117 広島県東広島市高屋台2丁目2番4号
TEL.(082)427-6680 FAX.(082)439-2450

〈表面処理〉

本社工場 〒734-8501 広島市南区宇品東5丁目3番38号
TEL.(082)252-5237 FAX.(082)505-1733

東日本工場 〒366-0801 埼玉県深谷市上野台1450番地27
TEL.(048)571-5216 FAX.(048)572-8186

中部日本工場 〒480-0304 愛知県春日井市神屋町字引沢41番地1
TEL.(0568)88-5151 FAX.(0568)88-5414

東日本営業所 〒366-0801 埼玉県深谷市上野台1450番地27
TEL.(048)572-8160 FAX.(048)572-8186

中部日本営業所 〒480-0304 愛知県春日井市神屋町字引沢41番地1
TEL.(0568)88-5104 FAX.(0568)88-5328

西日本営業所 〒734-8501 広島市南区宇品東5丁目3番38号
TEL.(082)252-5216 FAX.(082)505-1733

西日本営業所・大阪 〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目16番3号
TEL.(06)6337-6223 FAX.(06)6368-1824

〈事業会社〉

TOYO ADVANCED TECHNOLOGIES AUTOMOBILE COMPONENTS (THAILAND) CO., LTD.
Eastern Seaboard Industrial Estate No. 246 Moo 7, Tambol Borwin,
Amphur Sriracha, Chonburi Province 20230, Thailand
TEL.+66-38-998-750

上海東洋愛特克機床有限公司 (Shanghai Toyo Advanced Technologies Co., Ltd.)
Room 1109-1110, Holiday Inn Shanghai Pudong, No.899 Dongfang road,
Shanghai 200122, China
TEL.+86-21-6270-0301

マイクロテクノ株式会社

〒739-2124 広島県東広島市高屋町郷676
TEL.(082)434-1155 FAX.(082)434-1164
URL : <https://www.mitec.co.jp>

MICROTECHNO VIETNAM CO., LTD.

Plot J3,4 (RF-12), Thang Long Industrial Park II, Di Su Commune,
My Hao District, Hung Yen Province 17512, Viet Nam
TEL.+84-221-397-4542



会社のプロフィール

トーヨーエイトック株式会社の歴史は、1929 年にまで遡ります。後に自動車メーカーとなる東洋工業株式会社（現マツダ株式会社）の一部門として、研削盤の製造を開始したのです。

自動車メーカーの中で培われた工作機械の製造技術は、その後、時代をリードする産業分野で次々と高い評価を受けて参りました。とりわけ内面研削盤の評価は高く、今日では「内研の TOYO」として広く知られると共に、国内でトップクラスのマーケットシェアを持つメーカーに成長しています。

一方、自動車エンジン用に超硬質の膜を作る目的で我が国で最初に導入された CVD コーティング技術は、その後数々の改良を加え、当社の表面処理事業部門として大きな成長を遂げています。また、マツダへの自動車部品供給から始まった自動車部品事業部門は、当社の超精密加工技術の更なる向上と、事業の安定化に大きく寄与しています。

1989 年には、時代が求める経営の効率化や事業領域の拡大に対応すべく、マツダ株式会社より分社独立し、「トーヨーエイトック」の新社名のもと新たな事業展開を図りました。「トーヨー」には、内面研削盤を中心に一定の存在感を持つ TOYO ブランドと伝統に培われた人間技能の継承を、そして「エイトック」には新しい時代に向けての「Advanced Technologies」を志向する強固な意志を、それぞれシンボライズさせたネーミングです。

企業理念

私たちは存在感のある企業として発展しつづけることを目指し次の 3 点に注力いたします。

1. お客様に安心して使っていただける
質の高い商品とサービスの提供。
2. 卓越した技能と先進の技術に支えられた
革新的な価値の創造。
3. 活気に満ち効率の良い組織による
健全で収益の高い経営の追求。

CONTENTS

事業紹介	2
製品開発	4
工作機械事業	6
表面処理事業	8
自動車部品事業	10
環境対応	12
沿革・会社概要	13

『卓越したモノ造り』カンパニーをめざして

平素よりトーヨーエイトック グループ*の商品・サービスをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。ステークホルダーの皆様には格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

トーヨーエイトックは、工作機械、自動車部品、表面処理の 3 つの事業分野において、開発、製造、販売を行っているモノ造りカンパニーです。1950 年の創立以来、お客様のご期待を超える商品サービスを提供し続けることを志し、社名トーヨーエイトックの由来である Advanced Technologies（高度な先進技術）を駆使した精密加工技術力、モノ造り力の研鑽に取り組んで参りました。創立以来、着実に事業を発展成長させ大きな節目を迎えられたのは、ひとえにお客様とともに歩み、お客様に厳しくも温かく育てていただいた賜物と、心より御礼申し上げます。

私たちは、これからもお客様のご期待を超える商品・サービスを提供するために、常にお客様視点で理想を描き、その実現に向け挑戦し続けます。「トーヨーエイトック グループに頼めば、どんな困難な技術課題も解決してくれる、革新的なソリューションを提供してくれる」との信頼をよせていただける卓越したモノ造りカンパニーとなれるよう、そしてお客様から末永く選び続けていただけるブランド、企業となれるよう、グループ社員全員で力を合わせて不断の努力を重ねて参ります。

お客様の更なるご発展、ご隆盛に貢献することを喜びにこれからも邁進いたしますので、何卒一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

岡野 寛範

*＜トーヨーエイトック グループ＞
・トーヨーエイトック株式会社
・TOYO ADVANCED TECHNOLOGIES AUTOMOBILE COMPONENTS (THAILAND) CO., LTD.
・上海東洋愛特克機床有限公司
・マイクロテクノ株式会社
・MICROTECHNO VIETNAM CO., LTD.

● 事業紹介

「ニーズ」が見えれば「シーズ」が生かせる…。
私たちの事業は、今や3つの領域に広がっています。

私たちの主力製品は、工作機械です。様々な製品や部品を作るための機械を作るのが本業です。ここで培った技術ベースに、「お客様志向」の理念の基、より幅広いお客様のニーズにお応えする事を目指しています。

表面処理事業のシーズは、金型、工具、刃具、機械部品に不可欠な耐摩耗性、摺動性、成形性、耐食性、離型性を高める高硬度・高強度表面改質の技術です。工作機械を納入するお客様の工場でも多くの要具が使用されており、同様の表面処理が必要とされています。

自動車部品事業は、私たちの工作機械メーカーとして培った高度な油圧制御技術を、お客様のニーズにお応えして、高性能なオートマチックトランスミッション用オイルポンプとして具現化したものです。お客様と時代の要請に様々な形でお応えしていくのは、私たちにとって極めて自然なシーズの活用法でした。

お客様のニーズをしっかりと理解することで、私たちの事業領域はこれから更に広がると確信しています。そのために、お客様の期待に応えられるシーズ（アイデアや可能性）の強化を継続的に行っていきます。

●ハードコーティングの受託加工
CVD (TiC、C-TiCN)
PVD (TR-Flat2、TR-Flat、
低温 TiC-X、低温 TiC、TiN、
P-TiCN、TiAlN、CrN)
DLC、Arc-DLC
複合処理（タフコート、T コート）
PPD 処理
●歯車関連工具、精密金型、機械部品、
医療機器部品 他

表面処理事業

●内面研削盤（横形、立形）
●超大型立形研削盤
●外径研削盤
●歯車研削盤
●ホーニング盤
●超仕上盤
●スクロール加工機
●半導体・パワー半導体・
LED 用マルチワイヤソー
●各種レトロフィット
●生産管理システム
●工作機械NC制御装置
●工作機械部品 他

工作機械事業

●AT・CVT 用オイルポンプ
●フューエルレール
（フューエルデリバリーパイプ）
●フューエルポンプカム 他

自動車部品事業

開発設計技術

精密加工技術

表面改質技術

金型技術

システム化技術

電子制御技術

油・空圧技術

生産技術



JQA-AU0101
IATF 16949
自動車部品事業
（本社工場）



JQA-QM9109
ISO9001
自動車部品事業



JQA-2429
ISO9001
工作機械および
表面処理事業



JAER0816
ISO14001
本社および
東広島工場

さまざまな基盤技術を活かして展開される事業分野

● 製品開発

卓越した技能と先進の技術。
それが私たちの新しい価値を生み出す源泉です。

工作機械をはじめとする各種製品の開発工程では、さまざまな専門的先進技術が駆使されています。設計技術、精密加工技術、素材技術、表面改質技術、金型技術、油・空圧技術、システム化技術、電子制御技術、計測技術、構造解析、熱解析、振動解析など、主な技術領域を挙げるだけでも、その裾野の広さをご理解いただけると思います。しかも、最終製品の品質や性能向上に対応して、そのマザーマシンとなる工作機械や用いられる部品には、高い性能が求められています。

一方、製造・組立工程では、どうしても機械には置き換えられない技能の世界が存在します。私たちの製造工程では、長年の経験で技術者が培ったノウハウが、お客様に安心して使っていただける品質の高い製品を生み出しています。先進の技術を追求しつつ、伝統技能の計画的伝承を図ること・・・私たちが、私たちの企業理念に込めた、私たち自身のテーマです。



独自開発の対話型CNC装置
「TOYOMATIC」



IoT技術を活かしたTOYOマシンコネク



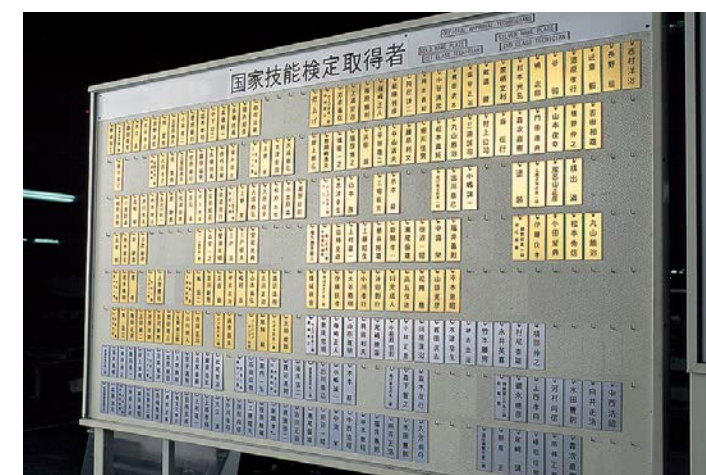
ソフトウェア・エンジニアがお客様の仕様に合わせたCNC装置を設計します



3D-CADとCAEを使った開発設計



熟練技能者の高度な技を次世代に伝承する「技能育成塾」



技能・技術の両面で計画的な伝承が行われ延べ200名を超える社員が国家技能検定を取得しています



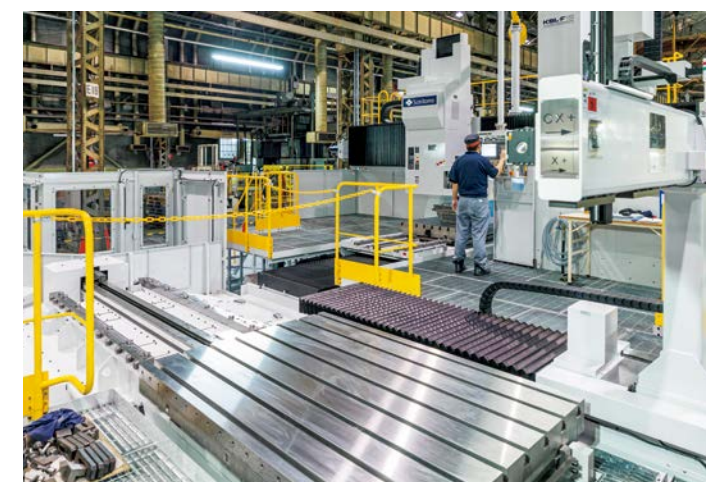
性能、信頼性向上のためにくり返されるオイルポンプのテスト



加工した歯車の測定



加工部品の3次元測定



マザーマシンの高精度を生み出す最新の製造設備

● 工作機械事業

これまで培ってきた技術、ノウハウを駆使し、お客様と共に新しい価値創造に取り組めます。

工作機械は、切削加工技術、砥粒加工技術、振動解析技術、熱解析技術、制御技術など、さまざまな技術ノウハウの集合体です。また、生産財という商品の性格から、販売やアフターサービスといった面でも、一般の消費財以上の高度な品質が必要とされます。

当社の工作機械を代表する内面研削盤は、1940年の第1号機以来、13,000台を越す生産台数を誇り、国内外の1,000社を超えるお客様にご愛顧いただいています。また、砥粒加工技術を応用したマルチワイヤソーは、国内外の半導体用シリコンウェハ製造トップ企業各社にご利用いただいています。このように TOYO ブランドの工作機械は自動車、家電、軸受、半導体業界など多くの基幹産業で高く評価され、2023年には工作機械の総生産台数 20,000 台を達成しました。

一方で、私たちを取り巻く環境は驚異的なスピードで変化しており、お客様が直面する課題もますます複雑化・高度化しています。このため、私たちはお客様のニーズに寄り添い、真摯に解決策を探索・提案し、お客様と共に新たな価値を創造できるよう取り組んでいます。当社の工作機械を通じてお客様の企業活動に貢献し、そして社会全体への貢献を果たすため、私たちは日々研鑽に努めています。



立形プロファイル研削盤



立形複合研削盤



超大型立形研削盤



立形スクロール加工機



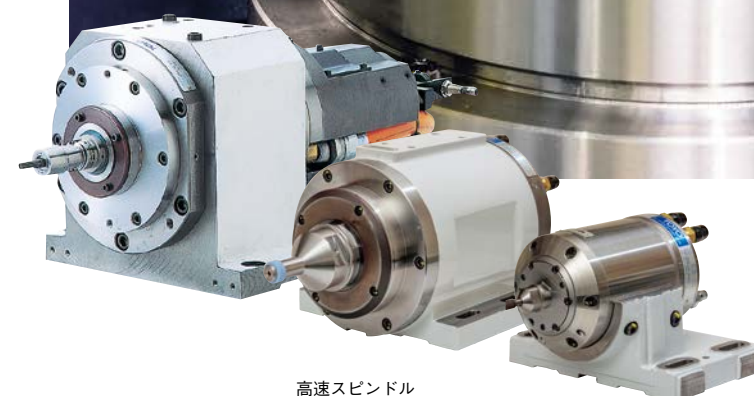
横形内面研削盤



立形研削盤



外径研削盤



高速スピンドル



歯車研削盤



サファイア・SiC・GaN用マルチワイヤソー



ホーニング盤

● 表面処理事業

お客様の課題を解決する
表面処理ソリューションを提案します。

表面処理技術は、もともとロータリーエンジン用の要素技術のひとつとして我が国で最初に CVD コーティングを導入実用化したことから始まりました。その後、加工の高度化、生産性の向上に向けてお客様の表面処理ニーズが多様化し、これらに応える為に技術開発に取り組んで来ました。塑性加工に使用する金型や工具類の耐摩耗性向上のニーズに対応すべく、まずチタンをベースとした非常に硬いコーティングを商品化。続いて、離型性、耐食性、耐酸化性、生体適合性、食品安全性等、様々な機能が要求される分野に対応する多岐にわたるコーティングを開発。

反応性の高いガスを媒介に品物表面に被膜層を作る CVD 法では、業界トップのシェアを誇ります。

また自社開発 PVD 炉や高精度分析装置を駆使することにより、従来 CVD 法で成膜していた TiC 膜を變形の少ない PVD 法で成膜可能にするなど、技術革新にも努めています。

さらに国内で初めて超大型窒化炉（PPD 炉）を導入し、自動車外板パネル用鋳物型など、これまで硬化処理できなかった大型金型でも耐久性を高める処理が可能となりました。

表面処理の受託加工に留まらず、単品の受託加工の他に素材からの一貫生産にも適用範囲を拡大し、表面処理技術を活かした金型・工具・部品を提供しています。特に高精度のプレス金型については、ダイセットの工法開発を含む設計・製作、金型を使った試作・評価も行っています。今後はこれら塑性加工等の設計・解析技術と、長年培ってきた表面処理技術の特長を融合させることで、当社のソリューションを最大限活用し、お客様の課題解決の為に提案、貢献していきます。



PPD炉ではメートル級の大型金型等への窒化処理を提供します



低温TiC-Xコーティングをした金型



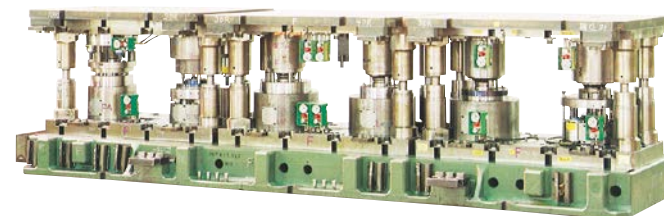
DLCコーティングした医療用ステント(上)と鉗子(下)



TiCコーティングしたプレス金型



CVD法でコーティングした製品



精密プレス金型は CAE 解析に基づく工法開発から設計製作、試作加工まで対応します



自社開発PVD炉で
高品質膜を提供します



PVD法でコーティングした歯車関連工具



開発や実験評価に用いる
高精度分析装置



耐熱膜 TR-Flat をコーティングした金型

●自動車部品事業

工作機械で培った独自の開発設計技術や生産技術を自動車部品事業に展開しつつ、新たな電動化部品分野の技術開発にも取り組んでいます。

当社では1985年から、自動車部品分野に参入し、自動変速機用のオイルポンプを生産しています。2012年に自動車部品の主力生産拠点を本社工場から東広島工場に移転して、さらに2013年に、タイに生産拠点を設立し、2023年には生産累計3,000万台を達成しました。2011年にガソリンエンジン用フューエルレール事業に参入、東広島工場での生産を開始し、2022年には生産累計1,000万台を達成しました。

これらは自動変速機とエンジンの効率向上に貢献する重要な部品であり、当社の流体解析・振動解析・強度解析・高精度加工技術などを活用して開発した商品です。さらに自動車の電動化に対応するための技術開発にも取り組んでおり、高効率・低NVH・小型軽量の電動ポンプ分野への進出を図っています。

今後も自動車部品事業部は当社の基幹部門の一つとして成長を続けていきます。

〈培ってきた開発技術と加工技術開発〉



開発部におけるCAE解析



フューエルレールの耐久試験

〈製造工場と部品〉

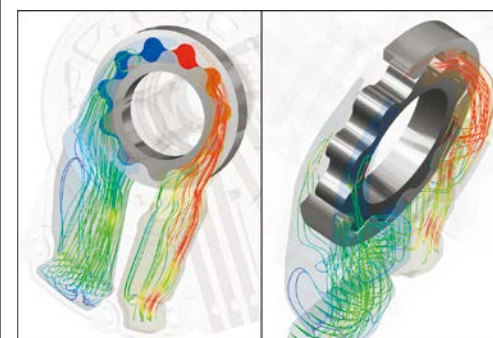


東広島工場



高圧ガソリンエンジン用フューエルレール

●流体解析



●応力解析



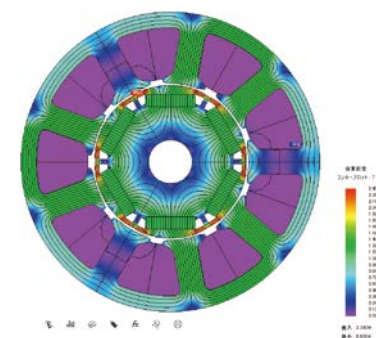
●高精度ポンプ歯面加工開発



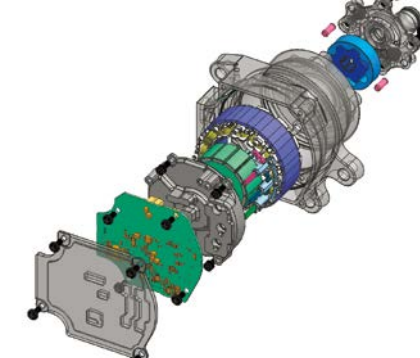
〈電動化に向けた開発技術と電動オイルポンプ開発〉

●磁界解析

モータ磁界密度

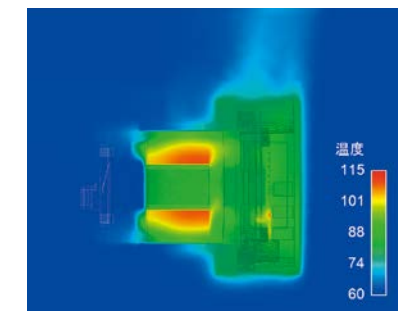


●超高効率電動オイルポンプ

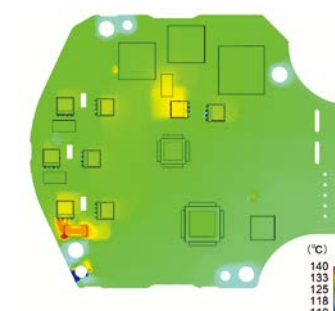


●熱解析

モータ発熱



基板発熱



自動変速機用オイルポンプ



オイルポンプ製造ライン

● 環境対応

21 世紀のニーズの根源は環境への配慮。
私たちの精密技術は、さらなる進化を目指します。

時に「繁栄」の象徴として語られた 21 世紀。これからの人類には、多くの環境問題の解決が求められています。建前としてではなく、すべての価値の基本としての環境意識が、人々の現実的なニーズに定着しつつあります。

例えば、自動車産業では、低燃費・低排出ガスなど環境問題への対応を積極的に進めています。家電業界でも省エネを実現するために高効率化が進み、さらなる精密技術が求められています。また、クリーンエネルギー技術として、太陽電池や風力発電も実用化が進んでいます。そして、これらの新しい技術に共通するのは、超精密加工のニーズです。社会が新しい価値を求める時、マザー・マシンとしての工作機械には、常に新しい進化が求められるのです。私たちは、これからも時代のニーズを真摯に受け止め、そのソリューションの提供に向けて、私たちの持てる力のすべてを投入しつづけたと考えています。

また、工作機械そのものも、エア消費量を抑えたスピンドル、電力消費量を抑えた機器構成、待機時の出力ダウン等、環境への配慮を進めています。さらに、私たちの工場では省エネ活動の推進、グリーン調達による環境に配慮した生産活動や、環境汚染の防止、廃棄物の分別排出によるリサイクルの促進など、あらゆる事業活動を通じて、人類共通の願いである環境の保全に向けて努力しています。

環 境 理 念

「私たちは存在感のある企業として発展しつづけること」を目指した企業理念の下、全ての工作機、自動車部品、表面処理の企業活動において、自然との調和を図りながら、持続可能な豊かな社会づくりと、環境保全に貢献します。

環 境 方 針

- < 基本方針 >
- 自然・資源・エネルギーを大切にし、社会や地域と調和したクリーンな事業活動による脱炭素社会および資源循環型社会を目指します。
- < 行動指針 >
- 環境法規制を遵守すると共に、事業活動による環境への影響を評価して環境保全レベルの継続的な改善に努めます。
 - 廃棄物の低減、エネルギー使用の抑制と脱炭素化を推進し、環境負荷の軽減に努めます。
 - 事業活動に関する一人ひとりの環境意識を高め、職場毎に自主管理による環境保全活動を推進すると共に、地域との共生を図ります。
 - ライフサイクルを考慮した地球にやさしい技術と商品を創造し、脱炭素社会、資源循環型社会の実現に貢献し続けます。

● 健康経営

< 健康経営宣言 >

私たちはすべてのステークホルダーから信頼され、お客様から末永く選び続けていただける企業となるために、従業員とその家族が心身ともに健康であることが不可欠であると考え、事故の無い職場、風通しの良い職場、働きやすい職場の実現、治療と就労の両立支援を重要課題として取り組みます。



沿革

1929	社内（東洋工業）用として研削盤を製造
1940	内面研削盤を製造
1950	汎栄機械（株）（販売代理店）設立
1953	工作機械の本格的な製造開始
1956	新型自動精密内面研削盤を製造開始
1968	TiCコーティングに関しMetall Gesellschaft AG社と技術契約締結
1981	トーヨータイシー（株）（現 中部日本工場）設立
1985	自動車部品事業を開始
1986	東京ハードコート（株）（現 東日本工場）設立
1989	マツダ（株）より分社独立、トーヨーエイトック（株）発足
1990	半導体用スライシングマシンを開発
1996	トーヨータイシー（株）、東京ハードコート（株）と合併
1997	トーコーハン（株）と合併、製販一体化
1999	ISO9001認証取得（工作機械事業）
2000	創立50周年 ISO14001認証取得（本社および広島工場）
2002	CVT用オイルポンプを開発 ISO9001認証取得（全事業）
2005	オイルポンプ（自動車部品）生産累計1,000万台達成 TS16949認証取得（自動車部品事業（本社工場））
2006	内面研削盤生産累計10,000台達成
2008	Nadcap認証取得（中部日本工場） PVD炉を開発
2009	ダイヤモンドマルチワイヤソーを開発
2012	東広島工場竣工 歯車研削盤を開発
2013	タイにオイルポンプ生産の現地法人設立 冠動脈用ステントの医療機器製造業許可を取得
2014	オイルポンプ生産累計2,000万台達成
2015	耐熱膜TR-Flatを開発
2017	IATF16949認定取得（自動車部品事業（本社工場））
2020	創立70周年
2021	Arc-DLCを開発
2022	フューエルレール生産累計1,000万台達成
2023	工作機械生産累計20,000台達成 オイルポンプ生産累計3,000万台達成 中国上海市に現地法人設立
2024	高耐久PVD膜 低温TiC-Xを開発

会社概要

社 名	トーヨーエイトック株式会社
設 立	1950年7月26日
資 本 金	30億円 （2025年3月現在）
株 主	伊藤忠商事株式会社、マツダ株式会社
売 上 高	286億円 （2025年3月期）
従業員数	666名 （2025年3月現在）
事業内容	○工作機械、半導体・パワー半導体・LED 関連機器、工作機械用数値制御装置などの製造・販売 ○ハードコーティングの受託加工、工具、金型などの製造・販売 ○自動車部品などの製造・販売